

相原尚之（比較病理学）、上家潤一（獣医病理学）、志賀崇徳（獣医病理学）、
峰重隆幸（診断病理学）、片平浩孝（環境生物学）

研究の背景

ヒトや飼育動物の生活環境のすぐ近くには、ヒトの健康に影響を与える衛生動物（ネズミ、虫、ダニなど）が住んでいます。これらの生物は感染症を媒介し、ヒトや飼育動物に悪影響を及ぼすことから駆除の対象となっています。

一方で、これら生物はヒトや飼育動物と住環境が重複していることから共生関係にあるとも言え、そこに住むヒトや飼育動物と同じ環境因子にさらされていることが予想されます。そこで、農場、住宅街、繁華街と異なる環境に住むネズミの病変を比較することにより、それぞれの場所の住環境リスクを明らかにできなにかと考えました。

アプローチ

農場、住宅街、繁華街などで駆除されたネズミを解剖し、その臓器を肉眼的に検査します。臓器をホルマリン固定し、顕微鏡検査用の標本作製、観察を行います。

それぞれの場所ごとに好発する病変を明らかにし、その病変を誘発する環境因子を明らかにします。病変の解釈は、微生物学的、寄生虫学的、化学的な検査結果と総合的に行います。

期待される結果

ヒトや動物の健康に影響を与える環境因子を明らかにし、その改善に役立つ研究を目標とします。

駆除の対象であるネズミを同じ環境に住む動物ととらえ、ヒトや飼育動物の住環境の改善のために役立つ新たな研究アプローチです。

肉眼病理学的、組織形態学的、比較病理学的な知識と技術を身に付け、自分で考える力を養います。

募集方法

学科を問わず、2～3名を募集します。

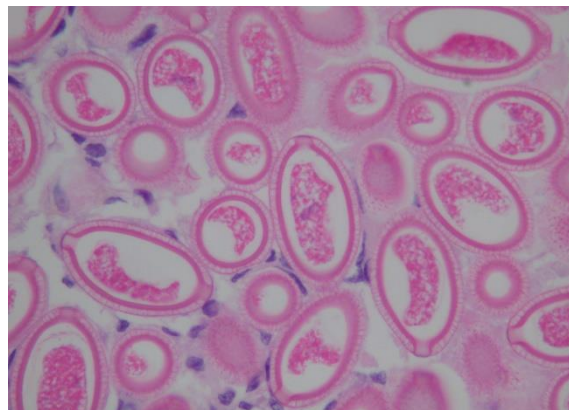
主体性をもって活動に取り組むことができる学生を希望します。プロジェクトを共に行う学生や教員とのコミュニケーションを取り、協調して研究に取り組むことを希望します。



ネズミはヒトのごく身近なところに住む動物です。最近ではコンビニや飲食店でのネズミ出没がニュースになりました。



肉眼的に病変を確認します。これは肝臓の寄生虫病変です。



病変を顕微鏡で検査することで、その病変の性質を明らかにします。特徴的な虫卵の形態から肝毛頭虫（*Capillaria hepatica*）寄生と診断しました。